

# 平成27年産 夏秋野菜の需給・価格の実績

## <概要>

- ### 1. 気象
- 7月は、北日本太平洋側では、上・中旬を中心に高気圧に覆われた日が多かったことから、日照時間はかなり多かったが、西日本では梅雨前線や湿った気流の影響を受け少なかった。また、平均気温については、北・東日本では高気圧に覆われ高かったが、西日本では、特に上旬が低かった。降水量は、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、梅雨前線や台風の影響でかなり多かった。
  - 8月は、北日本日本海側や東日本太平洋側では曇りや雨の日が続いたことから、日照時間は少なかった。また、平均気温については、上旬は太平洋高気圧の影響で北日本から西日本にかけ高かったが、下旬は前線や台風の影響により西日本で低かった。降水量は、沖縄・奄美から東日本太平洋側にかけ前線や台風の影響で多かった。
  - 9月は、東北地方から西日本にかけて前線や低気圧などの影響により、日照時間はかなり少なかった。また、平均気温については、上旬は低気圧などの影響で東・西日本で低く、中旬は大陸から冷たい空気の流入により低かった。降水量は、台風の影響で湿った空気が長時間流れ込み、北・東日本太平洋側を中心に多かった。
- ### 2. 生産・供給
- 夏秋キャベツは、岩手県産において、8月上旬まで干ばつによる生育の停滞や、10月には茨城県産において大雨の被害や群馬県産においては降雹被害などがあったものの、主産地の群馬県産において、期間を通して概ね順調に生育したことから、平年をわずかに上回った。
  - 夏だいこんは、青森県産及び北海道産において、8月までは干ばつや低温、日照不足など天候不順による影響はあったものの、9月以降、北海道を中心に生育が順調となり、平年をやや上回った。
  - たまねぎは、佐賀県産において7月は干ばつや病害があり、兵庫県産において8月から9月にかけて前倒し出荷など影響があったものの、9月以降、主産地である北海道産において、天候に恵まれ順調な出荷となったことから、平年をやや上回った。
  - 秋にんじんは、青森県産において、8月は前年の半分程度の出荷となったものの、主産地である、北海道において、適度な降雨で順調に生育したことから、順調であった前年をやや下回ったものの、平年をやや上回った。
  - 夏はくさいは、長野県産において、7月は干ばつによる植え直しの影響や、8月は高温による生育停滞や降雹などで入荷遅れがあったものの、9月には天候に恵まれ順調に生育したことから、平年をかなり大きく上回った。
  - 夏秋レタスは、7月中旬には長野県産や群馬県産において病害が発生し、9月中下旬には群馬県産において天候不順による生育停滞があり、10月に入り長野県産が終盤を迎え、茨城県産が曇雨天の影響から小玉傾向等となったことから平年を大幅に下回ったこともあり、期間全体では平年をわずかに下回った。
- ### 3. 需要・価格
- 夏秋キャベツは、7月中旬から9月下旬にかけて旬を追うごとに高値基調で推移し、10月に入り大幅に値を下げたものの、期間全体では前年及び平年を大幅に上回った。
  - 夏だいこんは、9月が平年をわずかに下回ったものの、7月から8月にかけて高値基調で推移したことから、期間全体で平年を大幅に上回った。
  - たまねぎは、7月は前年及び平年を大幅に上回ったが、北海道産の出荷が始まり順調な入荷となったことから、8月以降は下げ基調となり、特に10月は平年を大幅に下回ったものの、期間全体では平年をかなりの程度上回った。
  - 秋にんじんは、10月は平年を下回ったものの、8月から9月にかけて大幅に上回ったことから、期間全体では平年をかなり大きく上回り、安値であった前年を大幅に上回った。
  - 夏はくさいは、8月中旬まで上げ基調で平年を大幅に上回ったものの、8月下旬以降平年を上回るも前年を下回る時期が多く、前年をわずかに下回るも、平年を大幅に上回った。
  - 夏秋レタスは、期間を通して入荷量が安定しない月が多かったことから、前年及び平年ともに大幅に上回った。

## 1. 平成27年産夏秋キャベツの需給・価格の実績

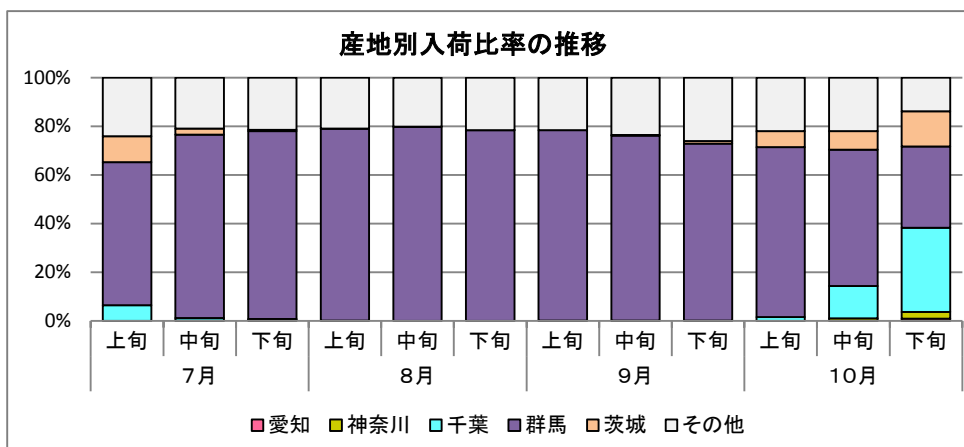
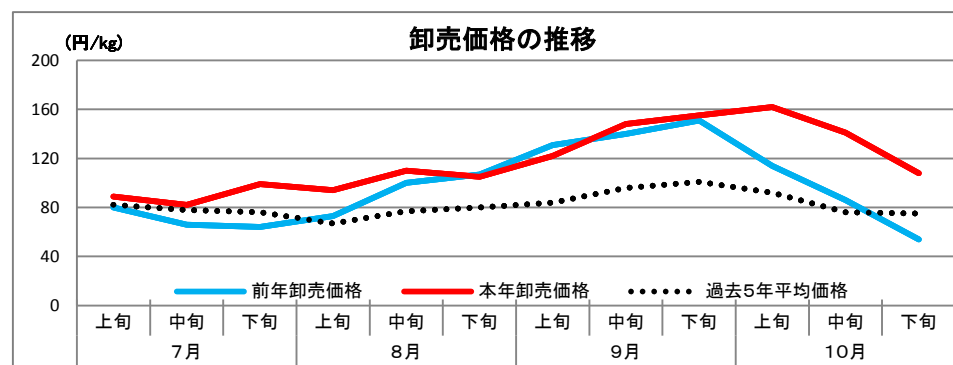
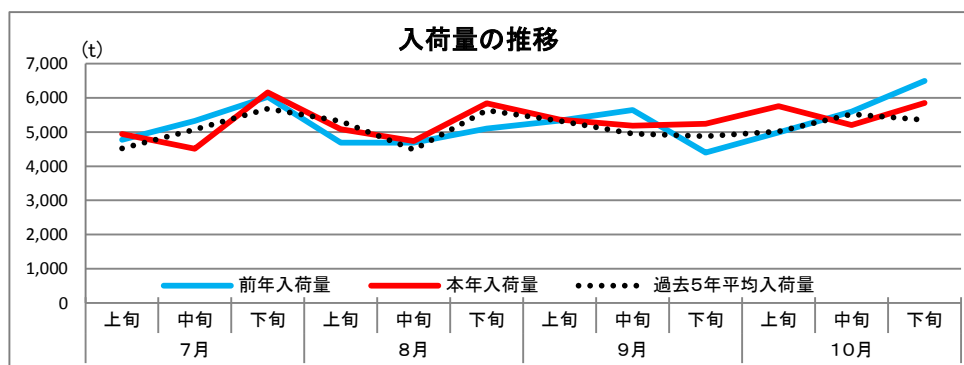
	前回の委員会(27.7.22)での見通し	実績(10月下旬時点)
夏秋キャベツ (7～10月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出荷量は、群馬県において干ばつの影響などから8月は前年を下回ると見込まれ、9月以降は、安定した出荷となって前年並みの見込み。</li> </ul> <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 価格は、8月は干ばつ等の影響から入荷量が減少して前年を上回り、9月は低温、長雨等の影響に加え、加工・業務用の需要も堅調で高値となった前年を下回り、10月は天候が回復し順調な出荷となり平年を下回った前年並みの見込み。</li> <li>● 加工・業務用は、カット野菜の需要が強く、事業者にとって必要量を契約できない産地もある。新規の加工業者は契約しづらいことや、カット野菜の生鮮小売りへの供給確保の影響から、原材料の市場調達が進むことも考えられ、その場合には市場価格が上昇する可能性もある。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 7月は、岩手県産において、干ばつの影響で生育の停滞が見られたものの、主産地の群馬県産において、7月に入り適度な降雨で、これまでの干ばつの影響も解消し順調に生育したことから、平年をわずかに上回った。</li> <li>● 8月は、主産地の群馬県産において、上旬は干ばつの影響で少なめの出荷となったが、中旬半ば以降、群馬県産及び岩手県産も順調に生育したことから、平年をわずかに上回った。</li> <li>● 9月は、群馬県産において、天候不順で生育が停滞したものの、岩手県産や北海道産が病害もなく順調に生育したことなどから、平年をやや上回った。</li> <li>● 10月は、群馬県産を中心に、順調な生育であったが、中旬には群馬県産が出荷終盤を迎え、茨城県産は大雨の被害の影響があり平年同となった。</li> <li>● 期間全体としては、前年並みとなり、平年をわずかに上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:102%)</li> </ul> <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 7月は、上旬は下げ基調で推移したが、高温、干ばつの影響で入荷量が減少し、中旬以降上げ基調となり、平年を大きく上回り、安値であった前年を大幅に上回った。</li> <li>● 8月は、前月の高値から旬を追うごとに値を下げるも、中旬にかけては前年及び平年を上回る高値で推移したが、下旬以降、入荷も増加したことから下げ基調となり前年を下回ったものの、平年を大幅に上回った。</li> <li>● 9月は、加工・業務用の需要も高かったこともあり、旬を追うごとに上げ基調となり高かった前年並みとなり、平年を大幅に上回った。</li> <li>● 10月は、上旬までは加工・業務用の需要も高かく平年を大幅に上回った。中旬以降旬を追うごとに値を下げるも、天候に恵まれ順調な入荷であった前年、平年を大幅に上回った。</li> <li>● 期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:145%)</li> </ul>

(参考1) 平成27年産夏秋キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	入荷量対比 (%)												期間計
	7月			8月			9月			10月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	104	85	102	108	101	115	101	92	119	115	93	90	101
過去5年平均比	97			108			103			98			
	109	89	108	96	106	104	101	105	107	115	94	109	
	102			101			104			100			

	卸売価格対比 (%)												期間計
	7月			8月			9月			10月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	111	124	155	129	110	98	93	106	103	142	164	200	124
過去5年平均比	132			110			101			167			
	109	105	130	140	143	131	145	154	153	176	186	144	
	115			137			153			169			

(参考2) 平成27年産夏秋キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

## 2. 平成27年産夏だいこんの需給・価格の実績

	前回の委員会(27.7.22)での見通し	実績(9月下旬時点)
夏だいこん (7～9月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出荷量は、北海道や青森県において、6月中旬から7月上旬の天候不順による干ばつなどの影響も懸念されるものの、期間を通じては安定した出荷が見込まれ、ほぼ前年並みの見込み。</li> </ul> <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価格は、期間を通して安定した出荷が見込まれることから、順調な入荷量があった前年並みの見込み。</li> <li>加工・業務用は、外食などから切りだいこんの注文が年々増加している。また、加工用需要が多くなってきているものの、本年は、加工向け産地の作付面積の減少や干ばつ等により生育が遅れている等から、産地において契約が進んでいない業者も一部にみられる。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月は、青森県産において、一部地域で干ばつや降雨の影響から前年をやや下回った。北海道産において、生育が順調であったことから、平年をかなり上回った。</li> <li>8月は、青森県産において、生育が順調で旬を追うごとに増加したものの、北海道産において、低温や日照不足の影響などから、平年をわずかに下回ったが前年を並みとなった。</li> <li>9月は、北海道産において、中旬は天候不順の影響から一部品質低下で一時的に前年を下回ったが、概ね生育は順調であった。また、青森県産においても順調に生育したことから、平年をかなり大きく上回った。</li> <li>期間全体としては、前年をやや上回り、平年をかなり上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:108%)</li> </ul> <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月は、月初めに入荷が大きく減少したため価格が急騰し、その後は旬を追うごとに下げ基調となり、月末には大きく値を下げたものの、安値であった平年及び前年を大幅に上回った。</li> <li>8月は、北海道産が干ばつと大雨の影響で肥大不足、青森産も高温で肥大が進まなかったこと等から中旬までは上げ基調となった。下旬は緩やかな下げ基調となったものの、平年及び前年を大幅に上回った。</li> <li>9月は、各産地とも順調な入荷となり、上旬は下げ基調となり、上旬半ば以降平年並みで推移したが、高値であった前年を大きく下回ったものの、ほぼ前年並みとなった。</li> <li>期間全体としては、前年をかなりの程度上回り、平年を大幅に上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:118%)</li> </ul>

(参考1) 平成27年産夏だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

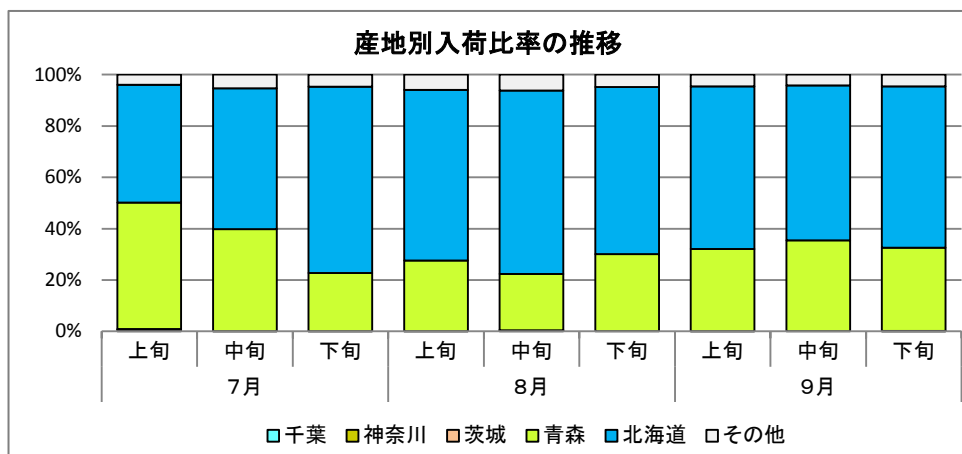
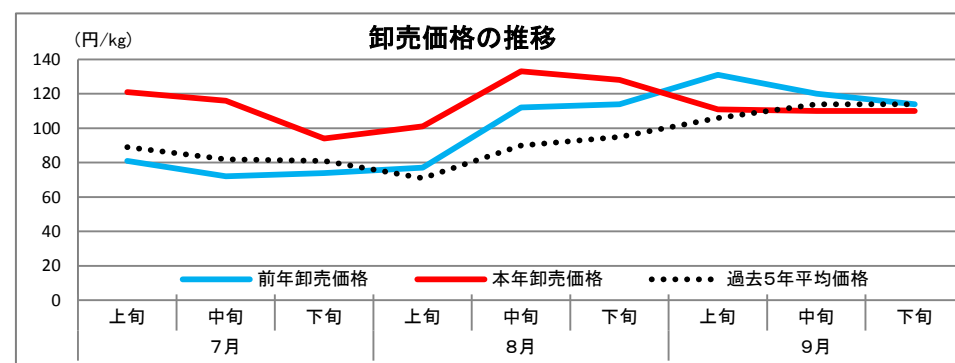
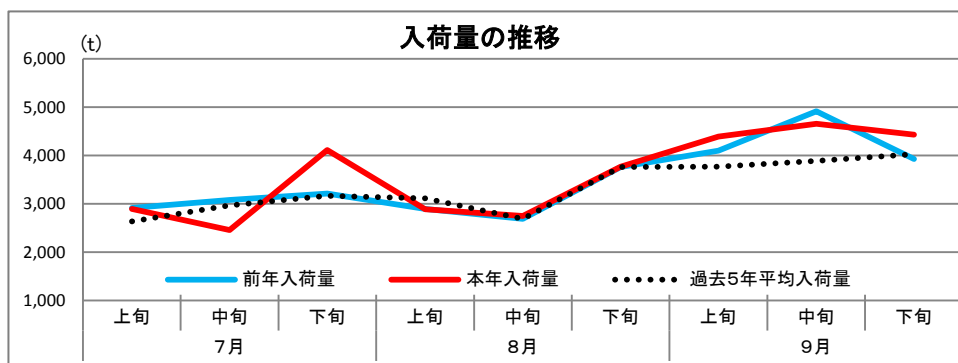
入荷量対比 (%)

	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	99	80	128	100	102	100	107	95	113	103
	103			101			104			
過去5年平均比	110	83	130	93	102	100	117	120	110	108
	108			98			115			

卸売価格対比 (%)

	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	149	161	127	131	119	112	85	92	96	110
	142			119			90			
過去5年平均比	136	141	116	142	148	135	105	96	96	118
	129			141			98			

(参考2) 平成27年産夏だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

### 3. 平成27年産たまねぎの需給・価格の実績

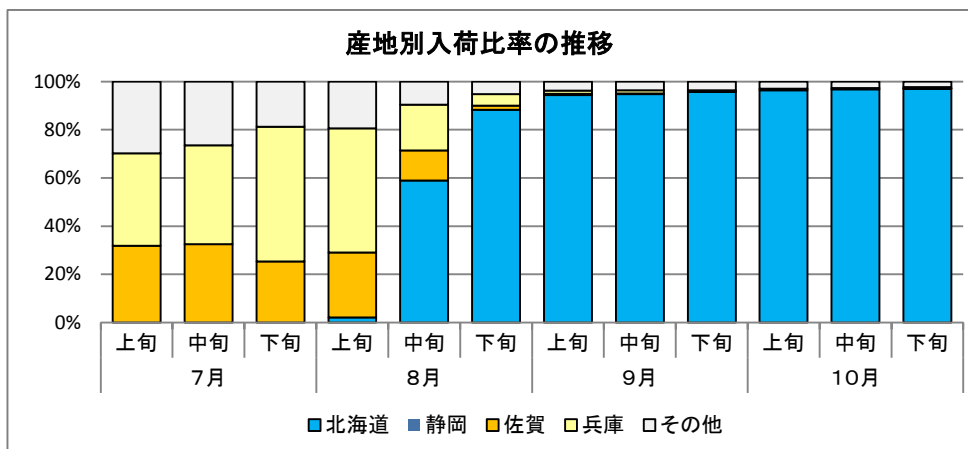
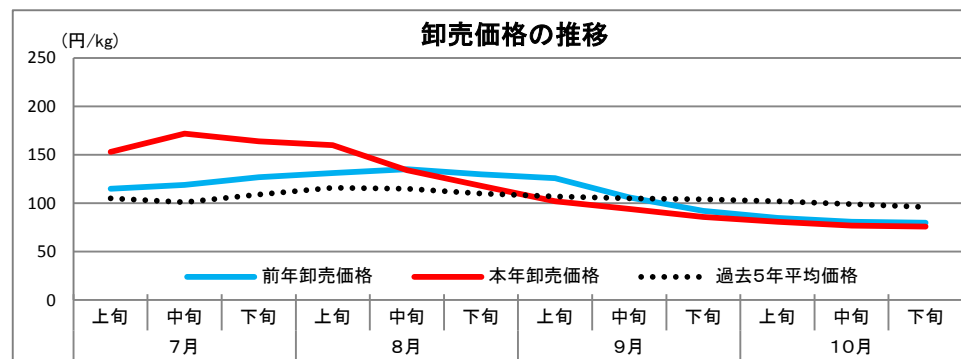
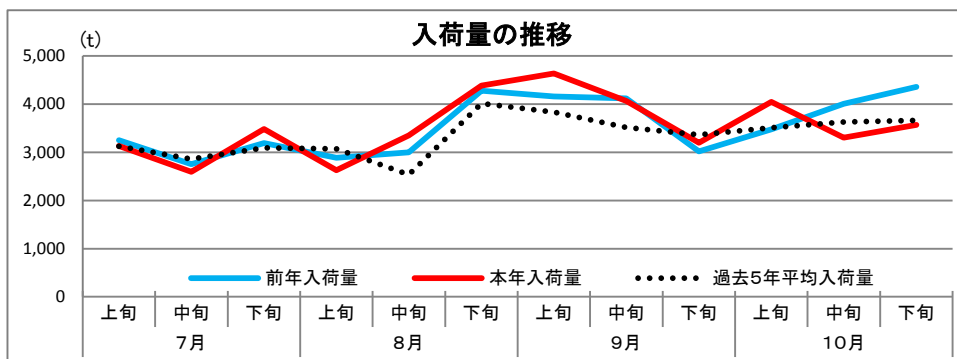
	前回の委員会(27.7.22)での見通し	実績(10月下旬時点)
たまねぎ (7～10月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出荷量は、産地の切り替え時期となる中で、佐賀県産が小玉傾向の影響で早めの切り上げとなり、主力の北海道産が出始めて出荷量が見込まれるものの、8月は前年を下回る見込み。北海道産は9月以降、生育順調で本格的な出荷時期を迎え、9月は前年並み、10月は前年を上回る見込み。</li> </ul> <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価格は、8月は佐賀県産が大幅に少なくなることから前年を上回り、9月は北海道産が順調であることから前年並み、10月は安かった前年を上回る見込み。</li> <li>加工・業務用は、中国産の残留農薬問題や作付面積の減少、国内価格の上昇もあり、北海道産の生育が順調であれば、国産への切り替えニーズがあるものの、自ら剥き玉に加工できる業者は限られていることから、中国産のニーズは、引き続き堅調と考えられる。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月は、佐賀県産において、干ばつの影響や病害の影響があったものの、兵庫県産において、順調に生育したことから前年、平年ともに並みとなった。</li> <li>8月は、兵庫県産において、前倒し出荷の影響で在庫が半分程度となったものの、主産地である北海道産において、生育が順調で豊作となったことから、平年をかなりの程度上回り、前年をわずかに上回った。</li> <li>9月は、兵庫県産が前年の半分程度であったものの、主産地の北海道において、天候に恵まれ順調に生育したことから、平年をかなり大きく上回った。</li> <li>10月は、北海道産において、天候に恵まれ順調な生育であったことから、前年並みとなったが、中旬以降は生育が順調で多かった前年をかなりの程度下回った。</li> <li>期間全体としては、前年同となり、平年をやや上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:105%)</li> </ul> <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月は、これまでの高値から、下旬にかけ下げ基調となったものの、総じて高値基調で推移したことから、平年及び前年を大幅に上回った。</li> <li>8月は、上旬までは前月に引き続いて高値で推移したが、中旬以降は北海道産が順調に入荷したこともあり、前年を下回ったものの、平年を大幅に上回った。</li> <li>9月は、順調な入荷により、期間を通して下げ基調となり、平年及び前年をかなり大きく下回った。</li> <li>10月は、順調な入荷により、期間を通して下げ基調となり、順調な入荷であった前年をやや下回り、平年を大幅に下回った。</li> <li>期間全体としては、前年をやや上回り、平年をかなりの程度上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:109%)</li> </ul>

(参考1) 平成27年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	入荷量対比 (%)												期間計
	7月			8月			9月			10月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	96	94	109	91	112	102	111	99	106	116	82	82	100
過去5年平均比	100	91	113	86	132	109	121	115	95	115	91	97	
	101			108			111			101			

	卸売価格対比 (%)												期間計
	7月			8月			9月			10月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	133	145	129	122	99	91	81	89	93	95	95	95	105
過去5年平均比	146	170	150	138	117	107	95	90	83	79	78	79	
	155			119			90			79			

(参考2) 平成27年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

#### 4. 平成27年産秋にんじんの需給・価格の実績

	前回の委員会(27.7.22)での見通し	実績(10月下旬時点)
秋にんじん (8～10月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出荷量は、8月は一部地域での天候不順により出荷の谷間ができる可能性があることから前年を下回り、9月以降は、順調な出荷が見込まれることから、ほぼ前年並みを見込む。</li> </ul> <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 価格は、8月は干ばつの影響から出荷の谷間ができる可能性があることから、安かった前年を上回り、9月は北海道産が順調であることから前年並み、10月はかなり安かった前年を上回る見込み。</li> <li>● 加工・業務用は、中国産が東南アジアからの引き合いが強く、価格が上昇しているものの、現在の国内産は干ばつ等で細いサイズのものが多く、加工・業務用では使いづらい状況にあるが、北海道産の作柄次第では中国産にシフトする可能性がある。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 8月は、主産地の北海道産において、適度な降雨で順調に生育したものの、青森県産において、前年の半分程度と大幅に下回ったことから、平年をやや上回った。</li> <li>● 9月は、主産地の北海道産において、適度な降雨により肥大が促進され順調なことから、平年を上回ったが、順調に生育した前年をかなりの程度下回った。</li> <li>● 10月は、北海道産において、天候に恵まれ順調な出荷となり、平年をかなり上回ったが、生育が順調であった前年をわずかに下回った。</li> <li>● 期間全体としては、前年をやや下回り、平年をやや上回った。 (8～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:105%)</li> </ul> <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 8月は、青森産及び千葉産の入荷が大きく減少して7月下旬が高値となったことから、上旬から中旬にかけて下げ基調となるものの、安値であった前年及び平年を大幅に上回った。</li> <li>● 9月は、干ばつの影響から北海道産の入荷が減少したため、上旬から高値で推移し中旬以降下げに転じたものの、安値であった前年及び平年を大幅に上回った。</li> <li>● 10月は、北海道産の入荷が順調であったことから、9月までの高値あり、旬を追うごとに値を下げたものの、平年をやや下回ったが、安値であった前年を大幅に上回った。</li> <li>● 期間全体としては、前年は大幅に上回り、平年をかなり大きく上回った。 (8～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:112%)</li> </ul>



(参考1) 平成27年産秋にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

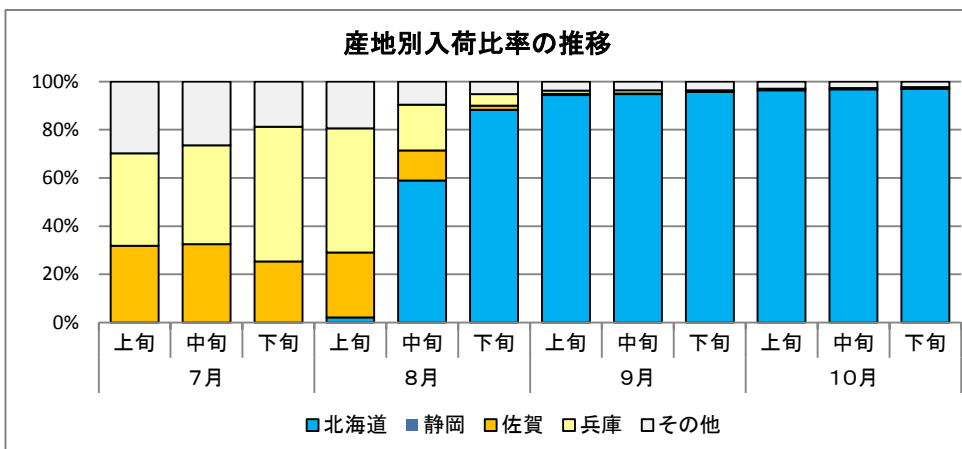
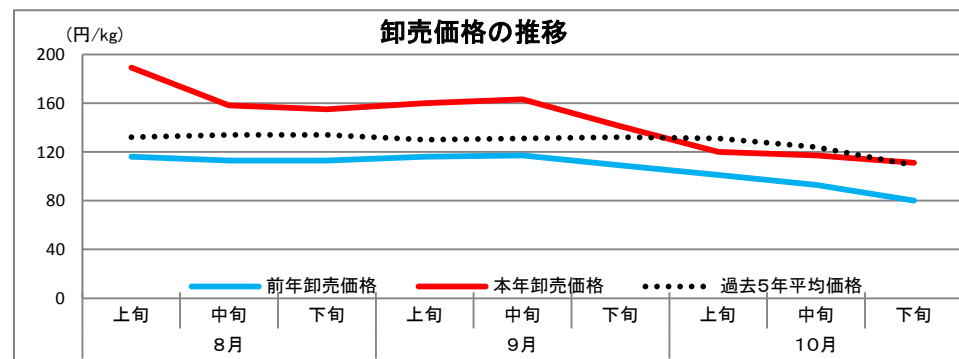
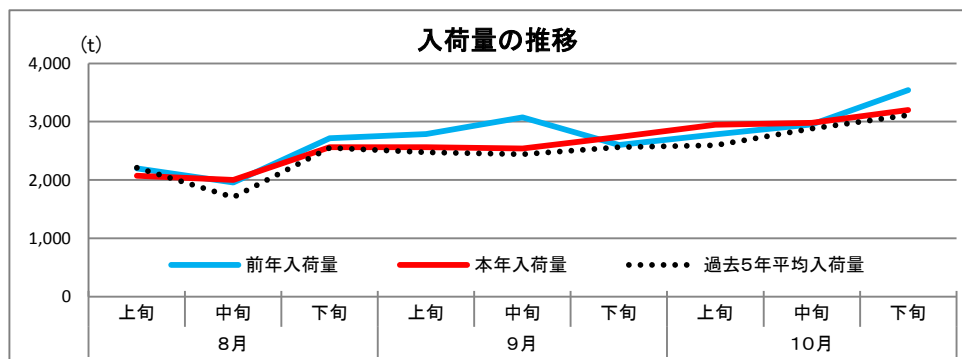
入荷量対比 (%)

	8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	94	102	94	92	83	105	106	101	90	96
	96			93			98			
過去5年平均比	94	117	100	104	104	107	113	103	103	105
	103			105			106			

卸売価格対比 (%)

	8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	163	140	137	138	139	129	119	126	139	137
	146			136			129			
過去5年平均比	143	118	116	123	124	107	92	94	102	112
	126			118			97			

(参考2) 平成27年産秋にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

## 5. 平成27年産夏はくさいの需給・価格の実績

	前回の委員会(27.7.22)での見通し	実績(9月下旬時点)
夏はくさい (7～9月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出荷量は、主産地の長野県においては、6月までの長雨で一部出荷できないほ場もあったが、生育も回復して順調な出荷となることから、期間を通じて前年を上回る見込み。</li> </ul> <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価格は、順調な出荷が見込まれることから、天候不順で肥大不足等の影響から高かった前年を下回る見込み。</li> <li>加工・業務用は、契約単価は上がっているものの契約量を増やしており、現在は、在庫量も十分確保されている状態である。また、秋以降の本格的な需要期を迎えるまでに契約率を上げていく業者が多くなっている。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月は、主産地の長野県産において、定植時の干ばつ等により、一部のほ場で植え直した影響があったものの、他産地が順調に入荷したことから、平年及び前年をやや下回った。</li> <li>8月は、主産地の長野県産において、高温による生育停滞や降雹などから入荷が伸び悩んだものの、少なかった前年を大きく上回った。</li> <li>9月は、主産地の長野県産において、曇雨天により一時期生育停滞が見られたが、全体的には順調な生育となったことや、北海道産も順調であったことから、平年及び前年を大幅に上回った。</li> <li>期間全体としては、前年をかなりの程度上回り、平年をかなり大きく上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対平年比:111%)</li> </ul> <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月は、長野産が低温により入荷が減少したため、上旬から高値基調で推移し、下旬に大きく値を上げたことから、平年を大幅に上回った。</li> <li>8月は、高温により病気が発生するなど、入荷量が減少して中旬にかけて大きく値を上げ高値基調で推移し、下旬にかけて大きく値を下げたものの、平年を大幅に上回ったものの、長雨で高かった前年並みとなった。</li> <li>9月は、長野産が日照不足と低温から入荷量が減少したことから、中旬にかけ大幅に値を上げたものの、その後、月末にかけ値を下げたことから、高値であった前年を大幅に下回ったが、平年を大幅に上回った。</li> <li>期間全体としては、前年をわずかに下回り、平年を大幅に上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対平年比:130%)</li> </ul>

(参考1) 平成27年産夏はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

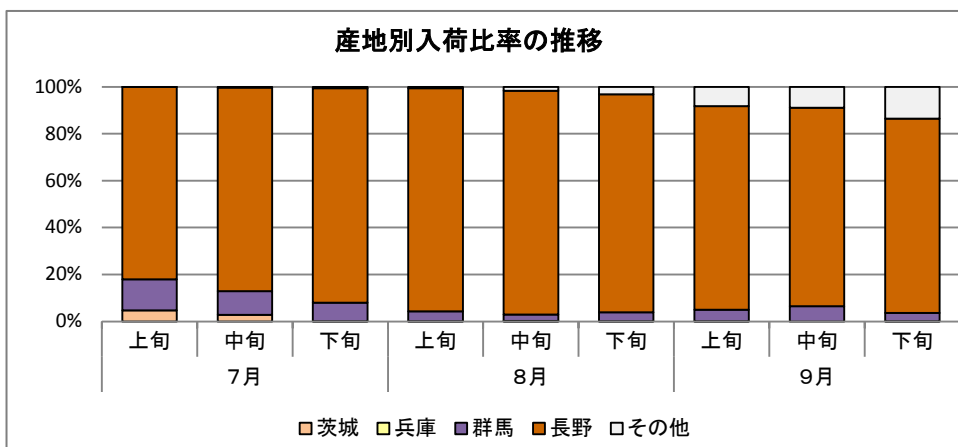
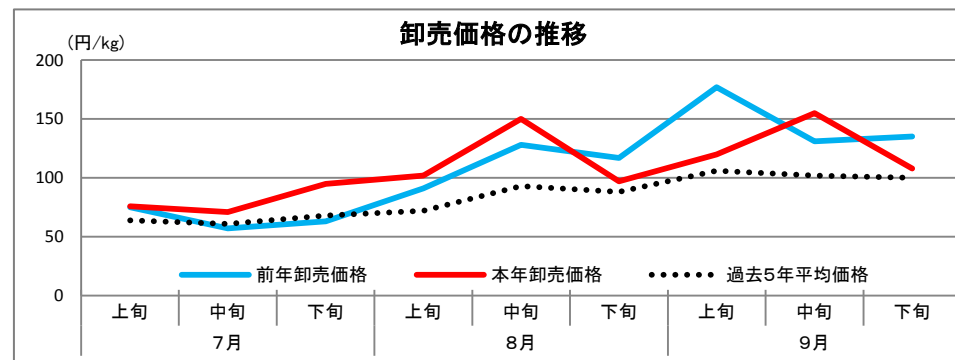
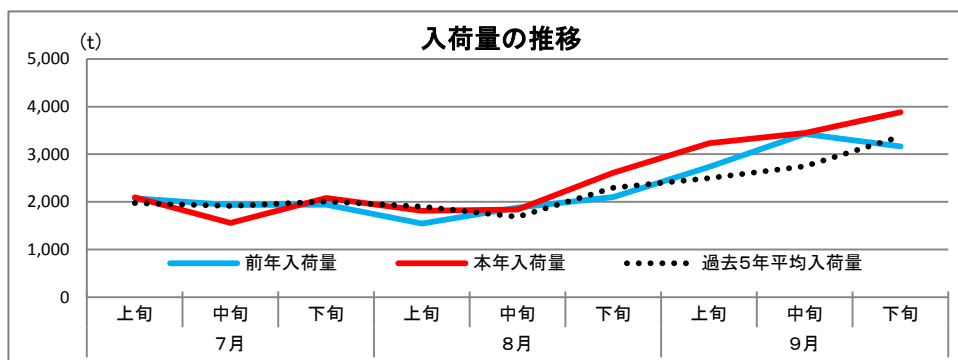
入荷量対比 (%)

	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	101	80	108	117	98	124	118	101	123	109
	96			113			113			
過去5年平均比	106	81	104	96	109	114	129	125	115	111
	97			107			122			

卸売価格対比 (%)

	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	101	125	151	112	117	83	68	118	80	98
	123			101			87			
過去5年平均比	119	116	140	142	161	110	113	152	108	130
	127			136			125			

(参考2) 平成26年産夏はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

## 6. 平成27年産の夏秋レタス需給・価格の実績

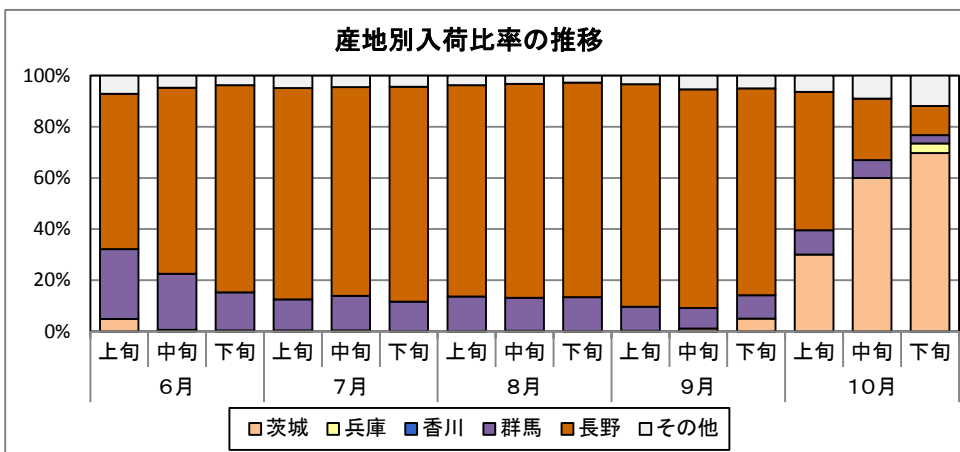
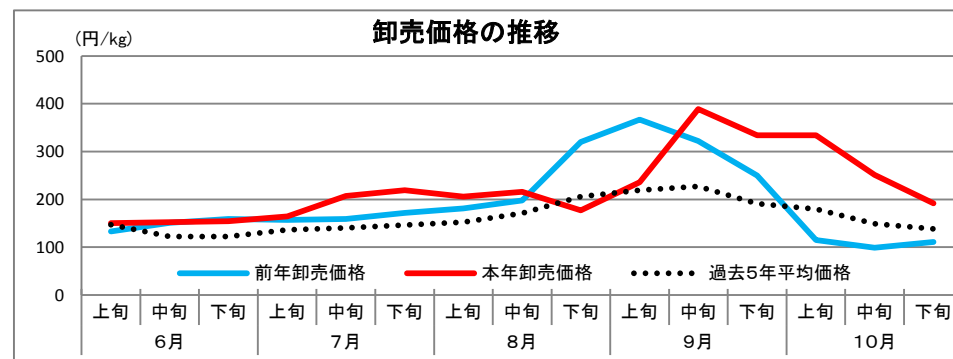
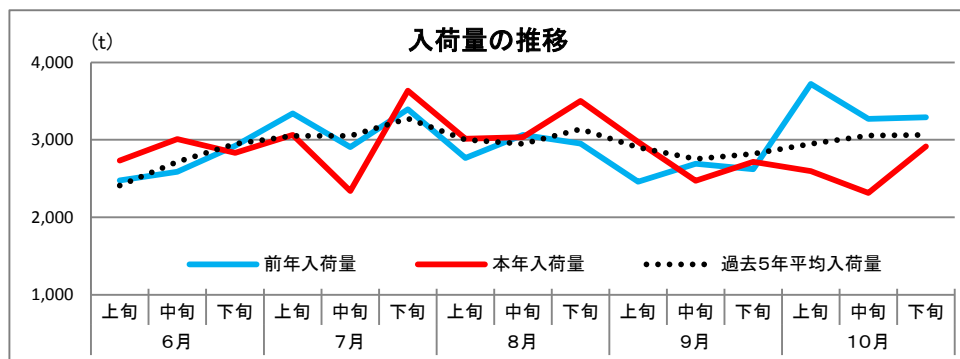
	前回の委員会(27.7.22)での見通し	実績(10月下旬時点)
夏秋レタス (6～10月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出荷量は、8月は降雨、高温のため病気が発生していることもあり前年を下回る見込み。9月は低温等の影響で少なかった前年を上回り、10月は平年を大幅に上回った前年を下回る見込み。</li> </ul> <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価格は、8月は入荷が少なく高かった前年並み、9月は長雨等の影響で高かった前年を下回り、10月は生育が回復し入荷量が多く安かった前年を上回る見込み。</li> <li>加工・業務用は、外食チェーンを中心に、国産野菜を使用したサラダにシフトする動きがあることから、需要量が増加する可能性があるが、価格条件の面から米国産等を確保する業者もできる可能性がある。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6月は、長野県産において、中旬以降低温や降雨で出荷が伸びなかったものの、上旬は順調に生育したことから、平年をかなりの程度上回った。</li> <li>7月は、長野県産及び群馬県産において、中旬にかけて天候不順による病害の発生などがあり、下旬にかけ回復したものの、平年をやや下回った。</li> <li>8月は、主産地である長野県産や群馬県産において、生育不良や雹害など一時的な影響はあったものの、平年をやや上回った。</li> <li>9月は、長野県産において長雨等により少なかった前年を上回ったものの、群馬県産において、天候不順による生育停滞の影響から、平年を下回った。</li> <li>10月は、長野県産において、終盤で少ない中、低温の影響や、茨城県産において、曇雨天等の影響から小玉傾向で数量が伸びず、前年及び平年ともに大幅に下回った。</li> <li>期間全体としては、前年をやや下回り、平年をわずかに下回った。 (6～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:98%)</li> </ul> <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6月は、中旬以降主産地の入荷が減少したため、上げ基調となり、平年を大幅に上回った。</li> <li>7月は、主産地での病害の発生から入荷量が減少したため、中旬にかけ上げ基調となり、生育も回復して月末にかけて下げに転じたものの、高かった前年及び平年を大幅に上回った。</li> <li>8月は、降雹等もあり上旬から中旬にかけて半ばにかけて上げ基調であったが、中旬後半から下旬半ばに下げ基調となったことから、長雨で高かった前年をかなりの程度下回るも、平年をかなり大きく上回った。</li> <li>9月は、主産地が曇雨天による生育遅延もあり、中旬にかけて大幅に値を上げ、下旬にかけ値を下げたものの、平年を大幅に上回った。</li> <li>10月は、入荷量が大幅に減少し、前年及び平年ともに大幅に上回った。</li> <li>期間全体としては、前年及び平年を大幅に上回った。 (6～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:136%)</li> </ul>

(参考1) 平成27年産夏秋レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	入荷量対比 (%)															期間計
	6月			7月			8月			9月			10月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	110	116	97	92	80	107	109	99	119	121	92	104	70	71	89	97
過去5年平均比	113	111	96	100	77	111	100	103	112	102	90	96	88	76	95	
	107			94			109			105			76			
	106			96			104			96			86			

	卸売価格対比 (%)															期間計
	6月			7月			8月			9月			10月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	113	101	97	104	130	127	114	109	55	64	121	134	290	254	173	118
過去5年平均比	102	125	126	121	148	150	136	126	86	108	171	175	186	168	139	
	103			121			85			101			238			
	118			140			112			148			165			

(参考2) 平成27年産夏秋レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター